

第 36 回（令和 7 年 3 月 9 日）向け（理論添削問題）

解答締切日：令和 7 年 2 月 25 日（火）

返却日：令和 7 年 2 月 26 日（水）より（順次）

オンライン合宿：3 月 1 日（土）（11：00～財務諸表、20：00～財務分析）

3 月 2 日（日）（11：00～原価計算）

ライブ添削会：令和 7 年 3 月 2 日（日）20：00～21：00 予定

直前質問会：令和 7 年 3 月 8 日（土）19：00～21：00 予定

解答速報・検討会：令和 7 年 3 月 9 日（日）19：00～23：00 予定

New

各 200 字以内で答えなさい

＜採点の考え方＞

加点要因→キーワード（文脈の中で正しさに欠ける場合は減点）

キーワードが合ってなくても同様の意味を示せば問題なし。

減点要因→主語と述語の非対応、論理構成の誤り（原因と結果の不整合等）

建設業経理士試験では、キーワードや法令用語であっても正式な用語を強く求められるわけではないことを意識してください。極端に言うと、間違っていれば主語と述語だけでも 2～3 点程度はもらえるということです。（例：減価償却の本質→減価償却とは取得原価を配分する手続きである）。試験では絶対にあきらめないでください。

過去の添削を行った感想⇒主語述語の対応関係が明確でない解答が数件ありました。記入した後に必ず対応関係を確認してください。また解答を列挙する場合は、できれば①②③などで箇条書きにした方が見やすくなるので試してみてください。

またテキストの内容をそのまま記入されている方も数人おられましたが、できるだけ自分で考えて自分の言葉で書く練習をしてください

あと、しっかりした回答にするためには、記述内容を「なぜ」「なぜ」「なぜ」の観点から理由を記述すると良いと思います。

＜例＞

減価償却をする→（なぜ）適正な期間損益計算をする→（なぜ）投資家の意思決定に資するため

<財務諸表>

発生主義と実現主義について、工事契約に関する会計基準に関わらせて述べよ

減価償却計算、修繕引当金設定の2つの手続きが承認される根拠を継続企業の公準に関係づけて2つの手続きに共通する会計理論上の根拠を明らかにせよ。

<原価計算>

① 借入金の原価性について

一般的原価計算慣行と建設業固有の事情の両方の観点から説明しなさい

建設工事における材料購入原価の計算において、材料副費をどのような考え方によって算入することが適切か述べなさい

<財務分析>

- ① 財務バレッジの意味を、経済発展との関連で論述しなさい。

- ① MS比率の2種類の計算式について述べよ
② EVAの計算式について述べよ